

採血支援システム導入の効果について

採血室の混雑解消を目指して

◎石井 未来¹⁾、田代 健一朗¹⁾、山中 良之¹⁾、木村 沙千代¹⁾
医療法人 徳洲会 岸和田徳洲会病院¹⁾

【はじめに】採血業務は臨床検査にとって最初に行う業務である。スムーズな採血業務の遂行は全体の turnaround time(以下 TAT)に大きく影響する。当院で実施した採血コーナー改修の内容と効果について、考察を含め紹介する。

【背景】当院の採血コーナーは採血業務のほか、生理機能検査受付としての機能を有している。繁忙時は室内に入りきれない患者が廊下まで溢れ、深刻な待ち時間問題を抱えており、如何にして状況を改善するかが課題であった。

【方法】採血コーナーの改修にあたり、Techno Medica 社の Assist More を採用。同時に生理機能検査呼び出しシステムにより、患者呼出しの導線を一新することとした。採血室レイアウトも大きく変更し、患者待機スペースを採血室内から採血室外の総合待合に変更した。その他、自動受付機を導入し再来受付機の開始時間に合わせて検査受付開始時間を変更、採血支援システムの機能である事前呼び出し機能を使用することでスムーズな患者案内を実現、ベッド採血用寝台の設置、患者ファイルの受け取りを無くしてファイルレス運用に移行などの変更を行った。

【結果】採血室レイアウト変更により採血台を2台増設することで採血業務ピーク時の処理能力を向上させることが出来た。また、改修前は頻繁に発生していた、受付順番待ちの患者同士のトラブルを解消することが出来た。その他、患者待合場所の変更による混雑回避や、中待合の採用により患者呼び出しから採血実施までの時間短縮、採血ログ解析による配置人員の最適化など、多岐にわたる業務改善を成し得たと言える。改修後の聞き取り調査では患者および職員双方から高い満足度が得られた。

【考察】今回、採血コーナーでの待ち時間問題解消のため、大幅な改修工事と共に、新しく採血支援システムおよび検査呼び出しシステムを導入した。機能拡張により一見待ち時間問題を解消できたように思えるが、その実、根本的な問題解決には至っていないと気付いた。時間帯によって採血患者が集中してしまう状況は多くの病院施設が抱える問題である。今後も患者と共に学習し、快適な環境を整えることで地域に貢献できる検査室運営を心掛けたい。

連絡先 072(445)9915(代表)